THE SCHOOL OF COMMERCE

これが商学部シリーズ Vol.5

ビジネスと教養

■社会との対話を通して考える■

明治大学商学部[編]

同文舘出版

THE SCHOOL OF COMMERCE

これが商学部シリーズ Vol.5

ビジネスと教養

■社会との対話を通して考える■

明治大学商学部[編]

同文舘出版

《検印省略》
平成26年3月30日　初版発行　　略称：商学部5(教養)

これが商学部シリーズ Vol.5
ビジネスと教養
～社会との対話を通して考える～

編　者　Ⓒ明治大学商学部
発行者　中　島　治　久

発行所　同文舘出版株式会社
東京都千代田区神田神保町1-41　〒101-0051
電話 営業(03)3294-1801　編集(03)3294-1803
振替 00100-8-42935
http://www.dobunkan.co.jp

Printed in Japan 2014　製版：一企画
印刷・製本：萩原印刷

ISBN 978-4-495-64631-8

これが商学部シリーズ Vol.5

ビジネスと教養 ～社会との対話を通して考える～

もくじ

序 ～ビジネス（そして人生）における教養の意味・役割～ 3

本書の構成 11

第1章 カルチャー

第1節 吉田菊次郎氏に聞く お菓子の世界、日本の文化、教養と文学……14

パティシエへの道 14／フランス修行、ブールミッシュ開業、そして文筆活動 15／パティシエから見た「日本の文化」とは 16／「文学の世界」とのつながり 17／ビジネスに欠かせない「教養・文学」 18／若い世代へのメッセージ 19／大学でしかできないこと 20

第2節 文学・〈教養〉・人生……21

(1) はじめに 21／(2)「日本近代文学」と〈国民国家〉 22／(3) 矢野龍渓「経国美談」 23／(4) 直井潔「二縷の川」～〈教養〉から〈生き甲斐〉に～ 25／(5)〈戦闘的自由主義者〉河合栄治郎 29／(6) おわりに 31

第3節 太田伸之氏に聞く ファッション産業での半生、そしてクールジャパンを世界へ……33

入学直後に大学封鎖、独学でファッション・マーケティングを勉強 33／実家の跡継ぎからの方向転換 34／アメリカでの生活 35／帰国後は、デザイナー組織づくり、ビジネスパーソン育成、そして社長として、数々の仕事を掛け持ちで 35／

ビジネスとして見た、ファッション産業の基本 37／小売業がプロデューサー 38／学生へのアドバイスとして 39／次は、クールジャパンを世界に向けて 41

第4節 グローバル化とファッション ～日本人デザイナーの社会学～ …… 43
(1) 日本人ファッション・デザイナー 43／(2) 文化が創られる社会の仕組みを考える 44／(3) なぜ欧米で成功することが難しいのか 46／(4) 世界で活躍する人になるために 51

第5節 風間 淳氏に聞く ホテル業への情熱と日本の伝統・文化・企業風土 …… 52
ホテル業への熱い思い 52／仕事を通して見た「日本の伝統・文化」 53／企業風土と「さすが帝国ホテル推進活動」 53／27年のキャリアパス 54／学生へのメッセージと大学への要望 55

第6節 歴史・伝統・文化 ～大学で学ぶ日本史～ …… 57
(1) 大学で学ぶ「日本文化史」 57／(2) 大学での「歴史」の勉強のしかた 59／(3) ザビエルが会った最初の日本人 61／(4) ヤジローのもう1つの顔 64／(5) ヤジロー、海賊になる 66

第2章 コミュニケーション

第1節 佐藤 健氏に聞く 東南アジアでの異文化コミュニケーションを通して …… 72
学生時代に学んだ「基本」 72／インドネシアへの転勤 73／フィリピンへ 74／東南アジアの中国人 75／東南アジアは日本をどう見ているのか 76／めざせ「グローバル人材」!! 78

第2節 多民族国家・多民族社会における異文化コミュニケーション ……

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

(1) 多民族社会へと向かう日本 78／(2) 多民族社会のモデル 79／(3) 閉じられた空間での情報「確認」 81／(4) 外部世界の人間は「接着剤」になりうるか？ 82／(5) 2つの第一歩 85

第3節 六浦吾朗氏に聞く 学生時代から持ち続けた「海外で働く」ことへの夢……88
海外で働く夢 88／「3度目の正直」で夢叶う 89／英語ではない英語 90／ブラジルの恐るべき多様性 91／日本はどう見られているのか 92／学生へのメッセージ 93

第4節 ビジネス実践英語 ～SOCEC（集中上級英語）プログラム：将来への礎～……94

第5節 山﨑織江氏に聞く 留学と就職を通じて体験したドイツ文化の魅力……102
商学部に入学した頃 102／ドイツ文化体験 ～留学と就職を通じて～ 103／「大学での学び」と現在のキャリア 104／ドイツでの働き方・休み方 105／海外から見た日本について 106／人とのつながり ～大学の外にも目を向けて～ 107／自分で考えること、世界を知ることの大切さ 107

第6節 「ドイツ語との出会い」をあなたの未来に活かすには……109
(1) はじめに 109／(2) グローバルな社会を意識してみよう 109／(3) 複数の外国語とまず出会ってみよう 111／(4) インターネット時代の利点を活かそう ～時事ドイツ語～ 113／(5) 少しずつ「経験」していこう 116／(6) おわりに 119

第3章 サイエンス

第1節 石川幸千代氏に聞く レストラン・ドクターとして「日本の食文化」に思うこと……122
高校教師からレストラン経営者へ 122／15店舗の経営者からレストラン・ドクターへ 123／「日本の食文化」について思う

こと 124／大学での「食育」の重要性 124

第2節 食は文化と科学の接点にある ～新しい教養としての食の文化と科学～ …… 126

(1) 生きるための科学を学ぼう 126／(2)「食育」はますます重要に 127／(3) 健康長寿をもたらす日本の伝統食 129／(4) がん予防効果やアンチエイジング効果がある食品 130／コラム 大豆を食べると、食料問題も解決？ 132／(5) ゼミで新しいカレーのメニュー創り 133／(6) 食事をする場の明るさ 136／(7) 現代の食は文化と科学の接点 137／(8) 外食や中食だけでは、不健康になりがちな理由 139／(9) これからの学食について（まとめに代えて） 140

第3節 岸 泰裕氏に聞く 金融業界から見える世界の動きと社会貢献・地域貢献への思い …… 143

学部と卒業後の進路の連結 143／金融業界内での転職の理由 144／大切なのは「将来の夢」 145／金融の仕事を通して見た「世の中の新しい動き」 146／これからの目標 147／学生へのメッセージ 148／大学への要望 148

第4a節 私たちの生活に身近な保険リスクマネジメント …… 150

(1) はじめに 150／(2) リスクのない状況での金融商品 151／(3) リスクがある状況 152／(4) 世界中のどこでも役立つ保険リスクマネジメント 154／(5) 大学で身につけておきたい3つの能力 156／(6) おわりに 159

第4b節 地域の動きから「世界へ」 ～フィールドワーク実践の意味～ …… 160

(1) 地域・社会連携と大学 160／(2)「地域」から学ぶ 161／(3) フィールドワークを通じて「地域」と連携する 164／(4) 世界と向き合う 166

第5節 舟橋達彦氏に聞く 企業家に求められる資質：文理マインド、主体性、海外志向 …… 169

卒業直前の内定取り消し 169／遠のく研究開発、そして経営の中枢へ 170／学生に伝えたいこと 171／新しい動きを見据えた2つの要望 171／黎明期と安定期で異なる人事方針 172

第6a節　MOT（技術経営）とTOM（経営技術）……174
(1)「文理分離」の傾向　174／(2)「文理分離」に対する疑問　175／(3) MOT（Management Of Technology：技術経営）の登場　177／(4) 商学部の新たなアプローチとしてのTOM（Technology Of Management：経営技術）　179

第6b節　大学と企業が協力して何ができるか ～産学協同就業力養成講座の取り組み～……183
(1) 日本の大学にいま一番求められているもの　183／(2) 主体性、それは「大学での学び」のすべての基礎　184／(3)「高校までの学び」と「大学での学び」はどこが違うのか　185／(4) 楽勝科目偏重型履修では「ギャップ」は埋まらない、むしろ広がる　186／(5) FSP（Future Skill Project）研究会に結集した情熱と使命感　187／(6) 産学協同就業力養成講座のめざすもの　188

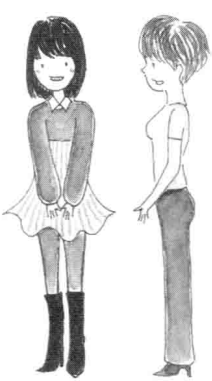
Column「教養」とは　191

第4章　女子会トーク　ビジネスと教養 座談会 ～社会からの要望と大学からの発信～
学生時代の一番の思い出は？　194／卒業後の進路を決定した最大の要因は？　196／なぜ商学部を選択したのか、そしていまは？　198／卒業・大学院進学・就職、そして女性の可能性は？　199／将来の目標と当面の課題は？　201／海外留学から学んだことは？　202／日常会話と講義の英語、どちらがわかりやすい？　204／「就活」成功の秘策は？　205／受験生（主に女子、しかし男子にも）にメッセージは？　206

Reading Guide　推薦図書一覧　209

あとがき ～〈これが商学部シリーズ〉全5巻の完結に際して～　215

執筆者／取材・編集担当者／座談会出席者一覧　218



◆イラスト（カバー・本文）大竹　美佳

THE SCHOOL OF COMMERCE

これが商学部シリーズ Vol.5

ビジネスと教養

■社会との対話を通して考える■

明治大学商学部[編]

同文舘出版

序

～ビジネス（そして人生）における教養の意味・役割～

《これが商学部》第5巻『ビジネスと教養』をお届けします。本書のタイトルは「**ビジネス**と教養」ではなく、文字通り「**ビジネス**と**教養**」と読んでいただければ幸いです。どちらか一方が強調されているということではありません。その理由は、本書を通読していただければご理解いただけることと思いますが、どちらも商学部が取り組むべき重要なテーマであるからです。

もちろん、〈ビジネス〉が商学部の教育の根幹をなすものであることは言うまでもありません。では、もう一方の〈教養〉は商学部の教育においてどのような位置を占めるものなのでしょうか。あるいは、〈教養〉とはそもそもどのようなものでしょうか。その厳密な定義をここで行うつもりはありません（本書では、第3章と第4章の間の191頁に清水真木先生による大変わかりやすい、味わい深い説明がありますので、そちらを是非お読みください）。しかし、教養を単なる知識として、あるいは、単なるスキルとして捉えるべきでないことは明らかであると思います。なぜなら、教養というものが、「これが教養です」という具合に、教養書やマニュアル本のような〈もの〉として呈示できるものでは本来ないからです。

私たちは、いまやさまざまなメディアを通して多くの情報を得ることが可能な社会に生きていますが、多くの情報に囲まれているからといって、知識、そして教養が〈身につく〉わけではありません。情報を確かな知識として〈身につける〉ためには、私たちが主体的に情報を選別し、その情報の大切な意味を見出し、〈自らの知識〉として、いつでも活用できるようになることが肝要です。そうできるようになった知識や情報がその

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

人の〈教養〉となるのです。そうでない知識や情報は、一時的な単なる短期記憶として終わってしまいます。受験の際の、単語や人名の丸暗記が、たいていの場合、試験が終わってしまえば役に立たなくなるのと同じです。

知識の蓄えは、それがどのような知識であっても（その知識が好奇心や必要性という動機づけに裏打ちされていればなおのこと）、現実生活のなかで意味を持ってくる局面がいずれ誰にでも訪れます。赤ちゃんが、最初は大人のことばをただ真似ているだけなのに、やがてそのことばを用いて自己表現を始めるように、多くの〈知識〉の集積がやがて〈知恵〉というものに質的変化を遂げ、現実生活でのさまざまな困難の解決に向けてそれが役立つようになります。大学の教育を経て社会や組織のリーダー的存在となる者にとって、そうした能力は一層重要な役割を担うことになるはずです。教養は、それ自体で人間の生活を豊かにするものですが、人の営みである仕事の現場においても、人間関係を円滑にし、信頼関係を深めていくために欠かすことのできないものなのです。「人間力をみがく」と言うといささか陳腐に響きますが、ビジネスに必要なのはそうした人間的魅力でもあるし、ビジネスの面白さも、そうした人間関係のあり方と決して無縁ではないと思います。

私たちはそうした教養の意味、教養の役割を常に念頭に置いて、本書の編集作業をつづけてきました。本書は、商学部がいまどういう教育をし、何をめざしつつあるのかということを、ビジネスと教養という観点から発信しようとするものです。

本書は、4章から成っています。最初の3章は、社会で活躍するOB・OGの方々に、これまでの経験を通して、学部教育について自由に語っていただき、関連する授業を担当する教員がそれに応えるという形になっています。各章は明確に区分できるものではありませんが、教養の主要テーマを示す意味で敢えて、〈カルチャー〉、〈コミュニケーション〉、〈サイエンス〉という見出しを付けました。また、最後の第4章は他の章と内容も性格も異なりますが、女性の活躍が社会で重要な位置を占めつつある現代において、女性の役割をクロー

ズアップすることには意味があると考えました。教養からの、ジェンダーに関する1つのまなざしと捉えていただければ幸いです。

明治大学　商学部教授
佐藤政光

これが商学部シリーズ Vol.5

ビジネスと教養 ～社会との対話を通して考える～

もくじ

序 ～ビジネス（そして人生）における教養の意味・役割～ 3

本書の構成 11

第1章 カルチャー

第1節 吉田菊次郎氏に聞く お菓子の世界、日本の文化、教養と文学……14

パティシエへの道 14／フランス修行、ブールミッシュ開業、そして文筆活動 15／パティシエから見た「日本の文化」とは 16／「文学の世界」とのつながり 17／ビジネスに欠かせない「教養・文学」 18／若い世代へのメッセージ 19／大学でしかできないこと 20

第2節 文学・〈教養〉・人生……21

(1) はじめに 21／(2)「日本近代文学」と〈国民国家〉 22／(3) 矢野龍渓「経国美談」 23／(4) 直井潔「二縷の川」～〈教養〉から〈生き甲斐〉に～ 25／(5)〈戦闘的自由主義者〉河合栄治郎 29／(6) おわりに 31

第3節 太田伸之氏に聞く ファッション産業での半生、そしてクールジャパンを世界へ……33

入学直後に大学封鎖、独学でファッション・マーケティングを勉強 33／実家の跡継ぎからの方向転換 34／アメリカでの生活 35／帰国後は、デザイナー組織づくり、ビジネスパーソン育成、そして社長として、数々の仕事を掛け持ちで 35／

ビジネスとして見た、ファッション産業の基本 37／小売業がプロデューサー 38／学生へのアドバイスとして 39／次は、クールジャパンを世界に向けて 41

第4節 グローバル化とファッション ～日本人デザイナーの社会学～ …… 43
(1) 日本人ファッション・デザイナー 43／(2) 文化が創られる社会の仕組みを考える 44／(3) なぜ欧米で成功することが難しいのか 46／(4) 世界で活躍する人になるために 51

第5節 風間 淳氏に聞く ホテル業への情熱と日本の伝統・文化・企業風土 …… 52
ホテル業への熱い思い 52／仕事を通して見た「日本の伝統・文化」 53／企業風土と「さすが帝国ホテル推進活動」 53／27年のキャリアパス 54／学生へのメッセージと大学への要望 55

第6節 歴史・伝統・文化 ～大学で学ぶ日本史～ …… 57
(1) 大学で学ぶ「日本文化史」 57／(2) 大学での「歴史」の勉強のしかた 59／(3) ザビエルが会った最初の日本人 61／(4) ヤジローのもう1つの顔 64／(5) ヤジロー、海賊になる 66

第2章 コミュニケーション

第1節 佐藤 健氏に聞く 東南アジアでの異文化コミュニケーションを通して …… 72
学生時代に学んだ「基本」 72／インドネシアへの転勤 72／フィリピンへ 73／東南アジアの中国人 74／東南アジアは日本をどう見ているのか 75／めざせ「グローバル人材」!! 76

第2節 多民族国家・多民族社会における異文化コミュニケーション …… 78

(1) 多民族社会へと向かう日本 78／(2) 多民族社会のモデル 79／(3) 閉じられた空間での情報「確認」 81／(4) 外部世界の人間は「接着剤」になりうるか？ 82／(5) 2つの第一歩 85

第3節 六浦吾朗氏に聞く 学生時代から持ち続けた「海外で働く」ことへの夢……88
海外で働く夢 88／「3度目の正直」で夢叶う 89／英語ではない英語 90／ブラジルの恐るべき多様性 91／日本はどう見られているのか 92／学生へのメッセージ 93

第4節 ビジネス実践英語 ～SOCEC（集中上級英語）プログラム：将来への礎～……94

第5節 山﨑織江氏に聞く 留学と就職を通じて体験したドイツ文化の魅力……102
商学部に入学した頃 102／ドイツ文化体験 ～留学と就職を通じて～ 103／「大学での学び」と現在のキャリア 104／ドイツでの働き方・休み方 105／海外から見た日本について 106／人とのつながり ～大学の外にも目を向けて～ 107／自分で考えること、世界を知ることの大切さ 107

第6節 「ドイツ語との出会い」をあなたの未来に活かすには……109
(1) はじめに 109／(2) グローバルな社会を意識してみよう 109／(3) 複数の外国語とまず出会ってみよう 111／(4) インターネット時代の利点を活かそう ～時事ドイツ語～ 113／(5) 少しずつ「経験」していこう 116／(6) おわりに 119

第3章 サイエンス

第1節 石川幸千代氏に聞く レストラン・ドクターとして「日本の食文化」に思うこと……122
高校教師からレストラン経営者へ 122／15店舗の経営者からレストラン・ドクターへ 123／「日本の食文化」について思う

こと 124／大学での「食育」の重要性 124

第2節 食は文化と科学の接点にある ～新しい教養としての食の文化と科学～ …… 126

(1) 生きるための科学を学ぼう 126／(2)「食育」はますます重要に 127／(3) 健康長寿をもたらす日本の伝統食 129／(4) がん予防効果やアンチエイジング効果がある食品 130／コラム 大豆を食べると、食料問題も解決？ 132／(5) ゼミで新しいカレーのメニュー創り 133／(6) 食事をする場の明るさ 136／(7) 現代の食は文化と科学の接点 137／(8) 外食や中食だけでは、不健康になりがちな理由 139／(9) これからの学食について（まとめに代えて） 140

第3節 岸 泰裕氏に聞く 金融業界から見える世界の動きと社会貢献・地域貢献への思い …… 143

学部と卒業後の進路の連結 143／金融業界内での転職の理由 144／大切なのは「将来の夢」 145／金融の仕事を通して見た「世の中の新しい動き」 146／これからの目標 147／学生へのメッセージ 148／大学への要望 148／金融の仕事を通し

第4a節 私たちの生活に身近な保険リスクマネジメント …… 150

(1) はじめに 150／(2) リスクのない状況での金融商品 151／(3) リスクがある状況 152／(4) 世界中のどこでも役立つ保険リスクマネジメント 154／(5) 大学で身につけておきたい3つの能力 156／(6) おわりに 159

第4b節 地域の動きから「世界へ」 ～フィールドワーク実践の意味～ …… 160

(1) 地域・社会連携と大学 160／(2)「地域」から学ぶ 161／(3) フィールドワークを通じて「地域」と連携する 164／(4) 世界と向き合う 166

第5節 舟橋達彦氏に聞く 企業家に求められる資質：文理マインド、主体性、海外志向 …… 169

卒業直前の内定取り消し 169／遠のく研究開発、そして経営の中枢へ 170／学生に伝えたいこと 171／新しい動きを見据えた2つの要望 171／黎明期と安定期で異なる人事方針 172

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com